

令和5年2月3日

上尾市議会議長 星野 良行 様

文教経済常任委員会

委員長 平田 通子

文教経済常任委員会の現地調査を行った概要について、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和5年1月19日（木）午後3時から
- 2 場 所 伊奈町クリーンセンター
(※新広域ごみ処理施設建設予定地を見学した後に訪問)
- 3 目 的 新広域ごみ処理施設に関する調査のため
- 4 参加委員 平田 通子 田島 純 新道 龍一 樋口 敦
轟 信一 鈴木 茂
- 5 執行部 環境経済部長 環境経済部次長
環境政策課長 西貝塚環境センター所長
- 6 随 行 事務局 議会総務課主査 野田 洋子
議事調査課主任 星井 智也

文教経済常任委員会

行政視察報告書

日程

令和5年1月19日（木）

場所

- ・ 埼玉県伊奈町（伊奈町クリーンセンター、新広域ごみ処理施設建設予定地）

埼玉県伊奈町

令和5年1月19日 午後2時10分から午後4時12分まで

◆新広域ごみ処理施設建設予定地の見学

(午後2時10分から午後2時30分まで)

◆伊奈町クリーンセンターについて

(午後2時48分から午後4時12分まで)

町の概要

人口 (令和4年12月1日現在)	45,251人
面積	14.79km ²
一般会計当初予算額	127億1,000万円

調査の目的

上尾市及び伊奈町では、平成30年6月11日に「上尾市伊奈町ごみ処理広域化の推進に関する基本合意書」を締結し、令和15年度を目途に広域でごみ処理を行う予定である。

両市町が広域ごみ処理を推進し、新施設の整備・運営に向けて具体的に事業を進めるため、ごみ処理の広域化に係る基本的事項を明らかにすることを目的とし、「上尾・伊奈広域ごみ処理基本計画」が令和4年3月に策定された。計画では、ごみの分別区分や収集体制の不一致のほか、ごみ処理有料化、ごみ処理方式など、広域化に向けた課題が様々挙げられている。

本視察では、伊奈町におけるごみ処理の現状と広域ごみ処理施設に関する意見や考えなどについて調査し、今後策定される施設整備基本構想や施設整備基本計画の検討に資することを目的とする。

調査の内容

説明

伊奈町クリーンセンターは焼却炉棟と粗大ごみ処理棟の2つの施設によりごみ処理を行っている。焼却施設については平成元年より運用が開始され、平成11年の改修工事を経て今に至っており、粗大ごみ処理施設については平成4年に運用が開始されて以降、改修工事は行わ

れていない。そのため、両施設とも老朽化がかなり進んでいる状況となっている。

伊奈町クリーンセンターは敷地が狭いこともあり、ごみを焼却する際に砂と一緒に暖めてごみを燃す形式を採用（流動床式焼却炉）し、2つの炉により運用している。そのうち1号炉については令和4年度から3か年かけて基幹的設備改良工事を行い、工事完了後は1炉で運用する予定である（現在は設計の段階。令和5年10月より工事開始）。

一日当たり搬入される可燃ごみの量は約40トン、不燃ごみの量は約10トンとなっており、ペットボトルは約8トン、ビンは4トンから5トン程度、一度に搬入されている。伊奈町全体で1,400程度のごみ集積所があり、パッカー車6台で収集している。

平成15年からプラスチックの分別収集を開始。手選別を行い、リサイクル対象となる容器包装プラスチックなどについては施設内で圧縮し、容器包装リサイクル協会の入札により決められた配送先へ運ばれる（年間約600トン程度）。

そのほか、伊奈町では缶とペットボトルを同じ日に回収している（容器包装リサイクル協会よりビンとペットボトルを同時に回収することはやめてほしいと言われている（ペットボトルにガラスが混在するとリサイクルの質が落ちるため））。

主な質疑応答

施設の運営、運転管理業務の主体は。

施設の運営は伊奈町が行っている。運転管理業務についてはクボタ環境エンジニアリング株式会社へ委託している。その他、粗大ごみの解体やごみの手選別なども委託しているため、現業職員はいない。

伊奈町と上尾市におけるごみ処理の違いは。※上尾市執行部に対する質問

ごみの量については上尾市は伊奈町のおよそ5倍である。上尾市は3炉あり、ストーカ式である。3炉のうち1炉は点検により運転せず、ほかの2炉により24時間ごみ処理を行っている。上尾市では地域還元施設として「わくわくランド」を整備し、ごみ処理の際の熱源を利用した温水を供給している。またプラスチックについては良質な熱源として可燃ごみとして処理している（一度燃焼した後は重油やガスなどを使わずにごみだけで燃焼させることができる）。

伊奈町の施設を見学して、手選別はごみ処理の大きな力となると感じたところである。

新しい施設を作っていく際の重点的なすり合わせ事項はどのような点か。※上尾市執行部に対する質問

環境政策課が策定したごみ処理基本計画の中で、ごみの分別方法については両市町で同じ方法とすることとされているが、ごみ処理方式についてどのようにしていくかが問題となるので

はないか（プラスチックの分別方法、施設整備、スペースなど）。

缶とペットボトルを同じ日に収集している理由は。

伊奈町では日程上、収集日が詰まってしまっているため、それぞれ別の日とすることができなかった。缶とペットボトルであれば袋を分けてもらえれば分別しやすいと考え、同じ日としている。

汚れがひどい容器包装プラスチックの処分方法は。

汚れがひどい場合はリサイクルに適さないため、やむを得ず焼却処分している。感覚としては1割程度ある。

手選別を行う人員態勢はどうなっているのか。

最大で15名、一日5時間勤務で行っている。

ごみの持ち込みで混み合い、車両が敷地外にまで渋滞してしまうようなことは無いのか。

年末年始は混み合い、敷地外にまで列が連なってしまうことがある。ただし、ここ数年は町民に事前周知を行うことでごみの持ち込みが分散されたため、以前ほど混まなくなっている。また、伊奈町では当番制により昼休憩が無いいため、朝から夕方まで通して受付を行っている。

収集依頼による粗大ごみの回収はどのように行っているのか。

月曜日と火曜日に委託により収集を行っている。契約上は午前8件、午後5件の回収となっている。一人3点までといった制限はない。収集依頼をする場合は庭先までは依頼者で搬出してもらい、そこから先は業者が搬出する。2週間後くらいに予約が取れることもあれば、1か月後となることもある。

高齢者でごみを出すことが困難な方向けに、ごみを回収に伺う事業を行っているか。

週に一度、事業を実施している（令和元年より開始。現在の登録者数は50名程度。職員が回収）。

※ごみの分別方法、ごみ処理施設については上尾市と伊奈町で統一して共同実施するが、収集方法については各自治体で決めて実施することとなっている旨、上尾市執行部から説明があった。

新広域ごみ処理施設予定地



伊奈町クリーンセンター

